

群馬県にもウミガメがいた！！

— 広く世界に分布していた小型のウミガメ —

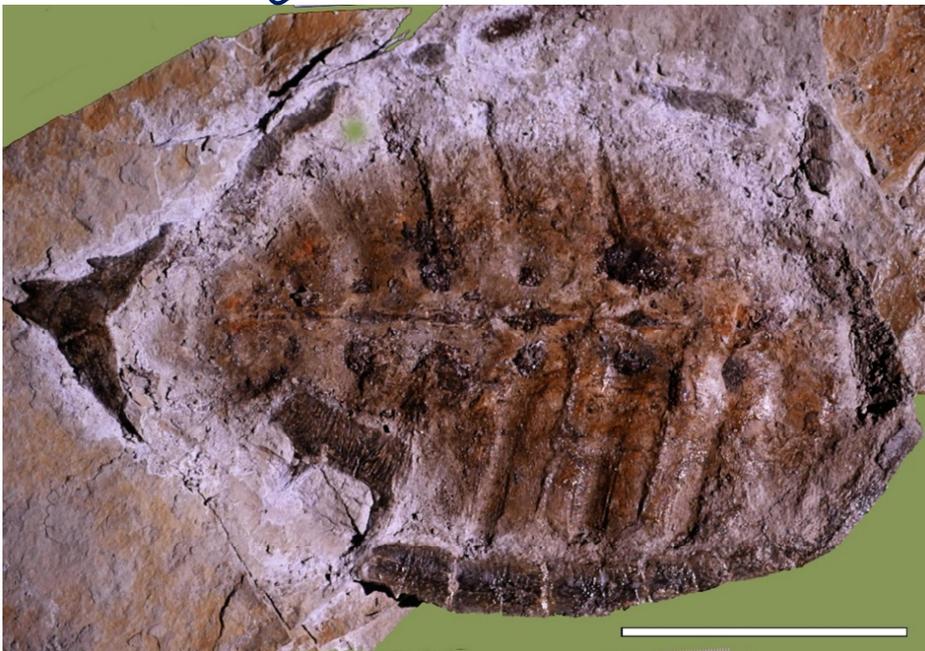
なぜウミガメの化石が海から離れた場所で見つかるのでしょうか？

このカメ化石は右の図(約1600万年前の日本)の★のあたりで発見されました。その頃のこの地域は外洋に通じる海でした。そうです！！群馬県には海があったのです。

この時代(中期中新世)は世界規模の温暖期でした。中緯度では現在より海水温度が約6℃、海面の高さは約140m高かったという報告もあります。今の群馬県あたりも熱帯から亜熱帯の気候だったと考えられます。



群馬県立自然史博物館 第24回企画展展示解説P8の図をもとに作図



クロベガメ (シーロムス)

Syllogmus aegyptiacus (Lydekker, 1899)

富山県の黒部で初めて発見されたのでクロベガメの名がつけられました。

1985年11月29日、中村庄八氏が群馬県富岡市妙義町の諸戸川河床の富岡・安中層群で発見

甲羅の全長 推定 30cm

腹側の部分の標本

スケール 10cm

写真 橘 伸一朗氏 提供

このカメは、日本国内では埼玉県、福島県、千葉県からも見つかっています。さらに北米やエジプトからも報告されており、現在見られるウミガメのなかまと同じように広く世界に分布をしていたと考えられています。碓氷川にみられる富岡・安中層群から多数がまとまって発見されており、なぜこのように集まったのかは謎とされています。